

移住までの流れ

- 1 情報収集・相談** インターネットで情報を集めることも容易になっていますが、ぜひ役場等にも直接お問い合わせください。
- 2 現地を確認** 移住先を訪問し、現地での生活をイメージしましょう。実際に訪れてみることで、イメージは鮮明でより具体的になります。
- 3 仕事を探す** 生活の基盤となる仕事はとても重要です。事前にハローワークや転職サイトなどを活用しておきましょう。
- 4 住まい探し** アパート、一戸建て借家、新築・中古住宅などさまざまな選択肢が考えられます。役場にもお気軽にお問い合わせください。
- 5 移住準備** 現居住地で転居の手続きを済ませましょう。
- 6 移住あいさつ回り** 引越しが終わったら、その地区の組長・常会長・区長などをたずね、ご近所へのあいさつ回りをしましょう。わからないことは、近所に聞けば親切に教えてくれます。

「住みよい町へ—5年後の高森町は、もっと元気になっている—」
まちづくり最前線

かわまちプロジェクト

高森町はリニア中央新幹線の長野県駅から15分の立地。また、中央自動車道座光寺スマートI.Cの整備や天竜川の東西を結ぶ竜神大橋の新設が計画されるなどが進行しています。さらに町は2028年開催の長野国体カヌー競技地に内定し、カヌーの町としての特色をさらに盛り上げていく機運が高まっています。

このような中で、関係人口の増大による町の賑わい発展のため、まちづくりと一体となった水辺の整備「かわまちプロジェクト」が進められています。



段丘の美しい里山整備

高森町を形成する段丘地形は、町の特徴であり魅力のひとつでもあります。段丘面には人々の暮らしが、段丘崖には緑豊かな段丘林が広がっています。生活の身近に存在する里山は、食料や木材の自然資源の供給、景観形成、国土保全や地球温暖化防止など、様々な役割を担っています。美しい段丘林の整備は行政のみならず、町民有志で組織された「ピリンジャー(美林ジャー)」による里山整備が進められています。



たかもりボンズ登録制度

高森町外にお住まいの方で、高森町出身の方、高森町のファンの方、高森町に行きたいと思っている方など、高森町に興味のある方との絆(ボンズ)を深めることを目的とした制度で、どなたでもお気軽に無料で登録していただけます。

「たかもりボンズ」のみなさんには、高森町に興味を持ち続けていただくこと、SNS等での宣伝や魅力向上に関する支援をしていただくこと、高森町を訪れていただくことなどを期待しています。高森町公式SNSのフォローやいいね!、シェアなど、応援をお願いします。

お問い合わせは
高森町役場産業課 TEL.0265-35-3111 FAX.0265-35-8294

E-mail:sangyou@town.nagano-takamori.lg.jp https://www.town.nagano-takamori.lg.jp

令和3年度 長野県地域発元気づくり支援金活用事業

高森町図鑑
TAKAMORIJIN ZUKAN

高森町で暮らし、活躍している「高森人」をご紹介します。
https://takamorijin.com/



「小さな町で大きな夢を」



高森町 Uターンガイド

長野県は「移住したい都道府県」16年連続第1位。

そんな長野県の南に位置する南信州高森町から、未来の定住者へ町の移住情報をお届けします。



なりたい「あなた」に会えるまち

南信州 高森町



ようこそ&おかえり 南信州 高森町へー。

高森町は飯田市に隣接する、天竜川西岸の段丘の町。
面積45km²の小さな地域ですが、
コンパクトな中にたくさんの魅力が詰まっています。

遠すぎない。近すぎない。

高森町は日本列島のほぼ真ん中に位置し、東京に車で3時間半、名古屋に2時間と、首都圏・中京圏と適度な距離にあります。

近い将来、リニア中央新幹線の開通を控えており、開通後は飯田市に設置予定の長野県駅から、東京に40分、名古屋に30分の時間距離となります。

寒すぎない。暑すぎない。

一年間の平均気温11.1度。年間降雨量2005mm。高森町は信州でも温暖で雪は少なく、四季が鮮やかな暮らしやすい地域。変化に富んだ段丘地形も魅力です。

高森町 基本指標

- 面積:45.36km² ●標高:最高 1,889m(本高森山) / 最低 413m(天竜川)
- 人口:12,870人(男:6,266人 女:6,604人) ●世帯数:4,529戸 ●平均年齢:48.33歳 高齢化率:32.16% (令和4年2月28日現在)
- 産業別就業人口:第1次 1,212人(17.3%) 第2次 2,094人(30.0%) 第3次 3,684人(52.7%) (平成27年国勢調査)
- アクセス:【自動車】中央道 松川インター・座光寺スマートインター 【高速バス】中央道高森下車
【電 車】JR飯田線 下市田駅・市田駅・下平駅・山吹駅

高森町のここがすばらしい

山・丘・里・川

山岳地帯から高原、里地、市街地まで、変化にあふれた地形に、都市の暮らしも田舎の暮らしもそろうています。

天竜川

伊那谷を南に流れ下る天竜川は当地方のランドマーク。恵まれた水量と流れを活かし、全国規模のカヌー大会も催されます。

果樹のまち

サクランボ、ブルーベリー、桃、梨、ぶどう、りんご、柿…。高森町周辺は南の作物(梨など)も北の作物(りんごなど)も実る、南北作物の境界域。段丘特有の地形から、一年を通じさまざまな果樹が栽培されています。

市田柿のふるさと

干し柿の代名詞ともいえる「市田柿」は、高森町の市田地区が発祥の地。「世界一美しい干し柿」として国内はもちろん、広く海外にも出荷されています。

精密機械工業

高森町をはじめとする南信州・伊那谷地域は、航空宇宙、半導体産業などに関連する精密機械工業の集積地。高い技術を誇る企業が当町でも操業しています。

若いまち

少子高齢化の時代にあって、高森町は平均年齢も48.33歳と南信州では一番若い町。子どもたちの元気にあふれています。



子育て・教育

高森町は「日本一のしあわせタウン」をめざし、子ども子育て支援に力を入れています。

子育て支援センター

町の子育て拠点施設「あったかてらす」は、保健センター機能も備えた子育ての拠点施設。出産・子育ての不安や悩みを解決し、健やかに育ち合うための集いの場です。



ふるさと学習の実践

小・中学校では、地域の自然・文化・産業にふれる「ふるさと学習」を通じ、豊かな生活体験の機会を設けています。



進む保育園整備

未来を担う子どもたちを育てるために、時代にあった保育環境の整備が進められています。今後は保育園の統合と新設により、令和5年4月からは町立保育園2園と、新しい私立保育園2園の4園となる予定です。

- (令和4年4月から)町立保育園3園(下市田保育園/山吹保育園/みつば保育園)、私立認定こども園1園(ばどま)
- 小学校:2校(高森北小学校/高森南小学校)
- 中学校:1校(高森中学校) ※中学生無料スクールバスあり ●都市公園:7園 ●高校:南信州エリアで7校

キャリア教育

中学生を対象にした、町の産業・職場体験です。実践的な経験が、将来の仕事「なりたい自分」を発見する機会になっています。



ふれあいスクール

学校を利用して、放課後の子どもたちが集う場です。授業とは違う異年齢間の交流促進により、仲間づくり・育ち合いの場となっています。



ICT教育

学校を利用して、放課後の子どもたちが集う場です。授業とは違う異年齢間の交流促進により、仲間づくり・育ち合いの場となっています。



子育て応援ガイド

妊娠中の方から高校生のお子さんをもつ方まで、子育て世代のみなさんが利用できる事業やサービスを紹介します。 <https://www.town.nagano-takamori.lg.jp/soshiki/12/1/1/2/714.html>



楽しく働く

高森町の産業は農業、製造業、商業・サービス業、建設業など。仕事探しの支援はもちろん、起業支援も充実しています。

就業

ものづくり、接客業、特殊技能を活かした仕事など、自分に合った仕事の斡旋・相談を行っています。



就農

就農希望者には、町の営農支援センターやJAが、めざす就農スタイルに応じたきめ細かな支援を行っています。



起業

「アントレプレナー支援事業」として、高森町で起業をめざす人に、専門スタッフによる指導、総合支援を行っています。



- 工業団地:2(下市田工業団地/山吹工業団地) ●工業用地:1(下市田産業用地) ●営農支援センター:1 ●JA:1(JAみなみ信州)
- 商工会:1(高森町商工会) ●ハローワーク:1(飯田市)

趣味や買物を楽しむ

飯田市に隣接している高森町は、買物環境や余暇の場も充実しています。趣味などを通じた仲間づくりの機会も多く、やる気次第で自分の可能性を広げられるでしょう。



買物環境

町内には大型ショッピングセンターや大型ホームセンターがあり、コンビニエンスストアも6店舗あるなど、買物環境は充実しています。農産物直売所も3箇所あり、周辺地域の人々にも人気です。



余暇を豊かに

高森町には、少し足を伸ばせば、自然体験、アウトドア体験の場は多数あります。地域の文化を学ぶ機会や自身のスキルアップの場もきつと見つかります。



- 大型ショッピングセンター:2(町内) ●大型ホームセンター:1(町内) ●コンビニエンスストア:6店舗
- 農産物直売所:3(町内) ※公共交通機関は少ないので、自家用車での移動が必須です。

安心して暮らす

生涯を通し安心して暮らすには、福祉・医療の充実も大切です。



医療

高度医療環境を備えた中核病院と地域の医療機関が機能分担と相互連携により、南信州全体で医療ネットワークを構築しています。



福祉

いくつになっても力量に応じ、一人ひとりが生涯現役で活躍できる地域社会をめざしています。



- 病院:1 ●整形外科:1 ●内科医院:4 ●婦人科:1 ●眼科:3 ●歯科:4 ●薬局:6 ●ドラッグストア:2 ●特別養護老人ホーム:2
- デイサービスセンター:4 ●公共バス:一日15便(R4.4から)

健康で快適に暮らす

コンパクトな中に、快適に暮らせるきめ細かな工夫と、適度な利便性が整っています。



住宅事情

戸建ての家を持ち、家族みんなで暮らす…。ここ高森町ではそんな夢も可能に。支援も充実しています。



生活環境

上下水道、ゴミ処理、防災など暮らしを取り巻く環境整備は、住民と行政がいっしょになって取り組んでいます。



道路環境

高森町では住民目線で作る「地区計画」を通し、足元の生活環境の整備や生活道路の整備充実が進められています。



地域に暮らす

くつつきすぎず、離れすぎず、適度な間のあるおつきあいが、心地よいコミュニティーをつくっています。



コミュニティー

高森町は21の地区に分かれ、その下に常会、組が組織されています。また公民館活動も盛んで、ソフトボール大会やカップ・ペタンクなどのニュースポーツの大会を開催したり、町の文化祭や成人式の主催を担っています。



近所づきあい

地域で豊かに生活するには、近所づきあいはとても大切です。ここには田舎すぎず都会すぎない、ちょうど良い近所づきあいがあります。



高森町 移住・定住への支援

子育て支援

各種助成制度の充実はもちろん、母親一人ひとりに寄り添った、妊娠期からの切れ目のない子育て支援を実施しています。

- 出生祝い金:出生1名につき5万円
- 産前産後家事支援事業:妊娠中あるいは出産後、家族の支援が受けられない場合や体調不良等で支援が必要な際に、高森町指定事業所にて家事や育児の支援を受けることができ、その費用の一部を町が助成するものです。対象の方には妊娠届出時に、家事応援券(1枚500円の券を10枚綴り)を交付します。
- 産後サポート事業:授乳相談・育児相談にかかる費用の一部を助成するものです。対象の方には妊娠届出時に産後サポート券(1枚1,000円の券・6枚綴り)を交付します。
- 産後ケア事業:規定の助産所・医療機関で出産後のお母さんが、心身を休めていただきながら、授乳や沐浴の仕方など育児について、助産師などの専門家によるサポートを受けることができます。
- 女性活躍子ども子育て拠点施設「あったかてらす」:室内でも遊べる大きなプレイルームがあるだけでなく、乳幼児健診、育児相談、就業相談など、子育て中の親の相談を何でも相談できる場所です。
- 子育て短期支援事業:家庭で子育てが一時的に困難になった場合(病気や育児不安など)に、子どもを預けることができます。
- ふれあいスクール(放課後子ども教室・学童保育):完全下校時刻までの間、児童が安心して過ごせるふれあいクラブと、保護者が就労等のため、放課後に自宅で一人になる児童の預かりを行う学童クラブによる放課後の児童の居場所づくり。
- 夢の教室事業:日本サッカー協会と協定を結び、高森町の子ども達が自分自身の“夢”を育み成長していけるよう、小学校5年生を対象とした「夢の教室」を継続的に実施しています。
- 高校・大学等の奨学金制度:高校・大学等へ進学するお子さんを対象に、経済的理由によって就学が困難な場合に奨学金を借りられます。

住宅支援

- 高森町住宅取得等補助事業:住宅を取得した方に、最大40万円を補助。詳細は役場産業課までお問い合わせください。
- 空き家情報紹介:空き家バンクにより、空き家情報を紹介します。

起業・就業支援

アントレプレナー支援事業

高森町産業連携支援員をリーダーに、高森町商工会の経営指導員、長野県信用保証協会、起業家が利用する金融機関、税理士など、起業に関係する機関が連携し支援を実施します。明確な経営ビジョンを描くことから始め、資金計画をたて、さらに制度資金や法人立ち上げなど起業に必要な手続きをトータルにサポートします。

農業をカッコよく、スマートにしていきたい

かたぎり げんしろう
片桐 源士郎さん

Profile
昭和60年高森町生まれ。
いちだ農産 専務
保育士になろうとしたほどの大の子ども好き。幼少期に「ダサイ」「汚い」「かっこ悪い」と思っていた農家の跡を継ぎ、今では市田柿の生産にプライドをもって取り組む若手農家。小さいころから群れになることを拒み、自分のやりたいことをやってきた人。とても明るくポジティブな性格の持ち主。「子どもたちが走り回る、昔も今も変わらない風景」を理想としている。



生まれはどちらですか。
生まれは高森町です。短大で、5年程はちょっと外(名古屋)に出たこともありましたが、それ以外は、高森町で生まれて育ちました。
今はいちだ農産として活躍されていますが、創業してどのくらいになるのでしょうか。
いちだ農産としては20年以上になります。親父がいるので二代目になりますね。元はといえば、うちのおじいちゃんややっていったのを、親父が途中で会社にして、いろいろと取り入れながら大きくしていったという感じですね。実質三代目みたいな感じかな...
短大(名古屋)を入れると外に出たのは5年間。ありきたりな質問ですが、外から見る高森町と「ここに戻りたい」という気持ちが出てきた理由などはあるのでしょうか。
生まれ育った場所ということもありますが、とにかく住みやすい町ですね。やはり生まれたのも高森町だし、環境を変えてみたけど、結局のところ名古屋が合わなかった。
それと、名古屋では保育士の短大に通っていました。保育士になるための勉強をしていたのですが、いざ保育士の現場に行ってみると、子どもは好きなのですが、先生になるの子どもが好きていうのは全然違うことに気づきました。
それで高森に戻って来られたと？名古屋は学生時代で終わったのでしょうか。
短大を卒業してから、先輩を頼りに名古屋市内の卸の市場で働きました。楽しさもありましたけど、朝早くても遅い過酷な仕事でした。とにかく大変でしたが、この経験は今も生きています。例えば、どれぐらいで叩いて、という金額でどういったところに流れていくのか、大変勉強になりました。この経験から、単価を高く売らないといけないという気持ちは強くなっていました。
元々、農業をやりたいという気持ちはなかったのですか。
子どものころは農家は嫌いでした。農家って昔は「汚い」「ダサイ」などと周りの人からとやかく言われ、かっこ悪く感じて嫌だった。
小さいころって、友達の家に行くとき、お土産

とかが持っていくじゃないですか。他の家の子はお菓子とか、箱に入った菓子折りとか持たせてくれるのに、うちは袋に野菜を持たされたのが本当に嫌だった。それを持って行くことがものすごく恥ずかしかったですね。
それでも今は誇りをもって農家さんをやっている...子育ての環境としてはどう思いますか。
子どもはまだ小さいですけど3人います。畑に来て、きゃっきや言いながら走り回ったりしています。まだまだお手伝いはできないですけどね。
高森町は親関係とか、こども関係とか、そんなにギクシャクしてないと思うし、先生もみんないい先生ばかりだし...子育ての施設や公園もいっぱいあるし、子育て環境としては恵まれていると思います。
片桐さんがめざす農業の姿はどのようなものなのでしょうか。
ダサくてカッコ悪いと思っていた農業を、できるだけカッコよく、スマートにしていきたいですね。みんなが憧れるような、みんなが就農したいと思えるような農家になっていきたいです。
片桐さんにとって、高森町ってどういう存在でしょうか。そして、どうなっていてほしいと思っていますか。
今の自分を形成してくれた源です。自然が豊かで、これからもずっと居続ける場所なので、いろんなものと共存していきたい。例えば、先祖代々守ってきた土地とか、自然、そして人。子どもが「かっこいい」と思えるような農家になって、継いでもらえたら嬉しいですね。



新規就農で夢をカタチに

たきぐち あきら
滝口 享さん

Profile
昭和52年埼玉県生まれ。
医療機器の製造会社に勤務していた40歳のとき、就農を決意。「市田柿の美味しい高森町で農作物を作って食べたい」と、令和元年からの2年間「高森町地域おこし協力隊」として新規就農研修を受講。令和3年4月から正式に高森町で農家として独り立ちし、現在はキュウリと市田柿の栽培を手がける。



令和3年3月をもって地域おこし協力隊を活用した「南信州担い手就農プロデュース」の研修を修了し、新規就農した滝口さん。春から夏はキュウリ、秋から冬は市田柿の生産に取り組んでいます。
「市田柿」との出会い
埼玉県蕨市で生まれ育った滝口さんは、学校卒業後、医療機器の開発会社に就職。朝から晩まで会社にこもり、デスクワークの毎日を送っていました。
「当時、祖父母が家庭菜園で野菜を作っていたのですが、実家に送ってくれる野菜が本当においしくて...」外で働きたい「農業をしたい」という気持ちが年々増していきました。
本格的に就農を決意したのは40歳のとき。会社を退職し、自分に合った土地を探すために、農家の手伝いをしながら全国各地をめぐりました。そんな中、飯田市で偶然出会ったのが「市田柿」でした。
「そのときは作業のお手伝いをしていただけで、完成品は食べられませんでした。熟した柿を食べさせてもらったら濃厚で、本当においしくて...」この柿でできる干し柿は「体どんな味なんだろう」と想像が膨らみました。その後、調べていくうちに市田柿はこの地域だけの伝統的なものだとことがわかり、自分の手で作ってみたいという気持ちが深まりました。
移住希望者を支援したい
こうして、市田柿発祥の地である高森町に地域おこ

し協力隊として就任。41歳からの2年間は行政・JAMANA信州が連携して進める「担い手就農プロデュース」に参加し、農産物の栽培法、経営などを学びました。その後、協力隊の任期を終えた令和3年4月に町内の空き家を購入、隣接の土地にビニールハウスも新設し、農家として独り立ちしました。
「担い手プロデュースで2年間農業に取り組んできましたが、みんなで作業するのと、すべての仕事をひとりこなすのでは、これほど違うとは思いませんでした。市田柿であれば、収穫・皮むき・吊し、すべてを限られた期間の中でやらなければいけないので、毎日が時間との勝負でした。大変でしたがなんとかなっていったので、これからは楽しみます」と語る滝口さん。経験が少しずつ自信になってきているようです。
「農家としてしっかりと生計を立てられること」を目下の目標に掲げつつ、自身がUターンで移住し、地域に温かく迎えてもらった経験から「いずれは移住を希望する人たちに支援できるような存在になれば」と、今後の夢を語ってくれました。



とかが持っていくじゃないですか。他の家の子はお菓子とか、箱に入った菓子折りとか持たせてくれるのに、うちは袋に野菜を持たされたのが本当に嫌だった。それを持って行くことがものすごく恥ずかしかったですね。
それでも今は誇りをもって農家さんをやっている...子育ての環境としてはどう思いますか。
子どもはまだ小さいですけど3人います。畑に来て、きゃっきや言いながら走り回ったりしています。まだまだお手伝いはできないですけどね。
高森町は親関係とか、こども関係とか、そんなにギクシャクしてないと思うし、先生もみんないい先生ばかりだし...子育ての施設や公園もいっぱいあるし、子育て環境としては恵まれていると思います。
片桐さんがめざす農業の姿はどのようなものなのでしょうか。
ダサくてカッコ悪いと思っていた農業を、できるだけカッコよく、スマートにしていきたいですね。みんなが憧れるような、みんなが就農したいと思えるような農家になっていきたいです。
片桐さんにとって、高森町ってどういう存在でしょうか。そして、どうなっていてほしいと思っていますか。
今の自分を形成してくれた源です。自然が豊かで、これからもずっと居続ける場所なので、いろんなものと共存していきたい。例えば、先祖代々守ってきた土地とか、自然、そして人。子どもが「かっこいい」と思えるような農家になって、継いでもらえたら嬉しいですね。

子育てママさんに聞く

県外から高森町に移り住んだ、子育て真っ最中のママさんお二人に、町のいいところ、悪いところなどをお聞きしました。

移住のきっかけは？
飯田市出身の主人と神奈川県で結婚し、2015年に飯田市へ移住し、2018年に高森町に移住しました。もともと主人に飯田下伊那に戻る意向があり、それが思ったより早くなりました。

高森町に来て感じたことは？
すごく人情味がありますね。悪く言うところも馴れ馴れしい、よく言うところもフレンドリーという感じですが、悪い印象はありません。地域の

なほこ
山村 奈保子さん

千葉県佐倉市出身
4歳の女の子と1歳の女の子のお母さん



高森町で生活していいと感じる点
大きな公園があって、子どもが公園大好きなので毎週遊びに行きます。子どもは自然に感動するみたいで、たとえば山に雪がかかる、「山に雪が積もってるよ！」と教えてくれます。私の母もこっちに来るたびに感動しています。

高森町の生活で大変な点
実家が遠いのですが、いい交通手段がないのでなかなか実家に帰れないですね。あと、病院が少なく、子どもを産む場所が選べないことに驚きました。

あつたかてらすについて一言
平日は保育園に通っているのですが、毎週土曜日に利用しています。暑い時や寒い時に、無料で室内で遊べてうれしいです。町外の人でも1回200円で使えるのは安いと思います。あと、乳幼児健診も受けられるので、「遊びに行くよ！」って言いながら検診に行けるのもいいですね。こっちに来た頃はいろいろな施設の場所がわからないので、いろいろな箇所まで済ませられるので助かりました。

高森町で生活していいと感じる点
大きな公園があって、子どもが公園大好きなので毎週遊びに行きます。子どもは自然に感動するみたいで、たとえば山に雪がかかる、「山に雪が積もってるよ！」と教えてくれます。私の母もこっちに来るたびに感動しています。

高森町の生活で大変な点
実家が遠いのですが、いい交通手段がないのでなかなか実家に帰れないですね。あと、病院が少なく、子どもを産む場所が選べないことに驚きました。

あつたかてらすについて一言
平日は保育園に通っているのですが、毎週土曜日に利用しています。暑い時や寒い時に、無料で室内で遊べてうれしいです。町外の人でも1回200円で使えるのは安いと思います。あと、乳幼児健診も受けられるので、「遊びに行くよ！」って言いながら検診に行けるのもいいですね。こっちに来た頃はいろいろな施設の場所がわからないので、いろいろな箇所まで済ませられるので助かりました。

移住のきっかけは？
2015年に駒ヶ根市出身の主人と埼玉県で結婚し、2020年に高森町に移住しました。

高森町に来て感じたことは？
主人が将来を考えて実家の近くに帰りたいため、実家に近すぎない飯田市や高森町を探していて、長女が年少にあがるときに高森町でいいところが見つかったので移住しました。

高森町で生活していいと感じる点
自然が多くて、子どもも公園で松ぼっくりを拾ったり、自然に興味をもつようになりまし

まみ
橋澤 真未さん

埼玉県越谷市出身
5歳の女の子と3歳の女の子と0歳の男の子のお母さん



高森町で生活していいと感じる点
大きな公園があって、子どもが公園大好きなので毎週遊びに行きます。子どもは自然に感動するみたいで、たとえば山に雪がかかる、「山に雪が積もってるよ！」と教えてくれます。私の母もこっちに来るたびに感動しています。

高森町の生活で大変な点
実家が遠いのですが、いい交通手段がないのでなかなか実家に帰れないですね。あと、病院が少なく、子どもを産む場所が選べないことに驚きました。

あつたかてらすについて一言
平日は保育園に通っているのですが、毎週土曜日に利用しています。暑い時や寒い時に、無料で室内で遊べてうれしいです。町外の人でも1回200円で使えるのは安いと思います。あと、乳幼児健診も受けられるので、「遊びに行くよ！」って言いながら検診に行けるのもいいですね。こっちに来た頃はいろいろな施設の場所がわからないので、いろいろな箇所まで済ませられるので助かりました。

高森町で生活していいと感じる点
大きな公園があって、子どもが公園大好きなので毎週遊びに行きます。子どもは自然に感動するみたいで、たとえば山に雪がかかる、「山に雪が積もってるよ！」と教えてくれます。私の母もこっちに来るたびに感動しています。

高森町の生活で大変な点
実家が遠いのですが、いい交通手段がないのでなかなか実家に帰れないですね。あと、病院が少なく、子どもを産む場所が選べないことに驚きました。

あつたかてらすについて一言
平日は保育園に通っているのですが、毎週土曜日に利用しています。暑い時や寒い時に、無料で室内で遊べてうれしいです。町外の人でも1回200円で使えるのは安いと思います。あと、乳幼児健診も受けられるので、「遊びに行くよ！」って言いながら検診に行けるのもいいですね。こっちに来た頃はいろいろな施設の場所がわからないので、いろいろな箇所まで済ませられるので助かりました。

高森町暮らしマップ



認定こども園 ばどま



高森北小学校



高森南小学校



高森中学校



高森町役場



中央公民館



町民体育館



健康センターあさざり



時の駅(歴史民俗資料館)



あつたかてらす